教科書p.174～p.175

第５章 開国と近代日本の歩み 3節 日清・日露戦争と近代産業 **NO.1**

1 欧米列強の侵略と条約改正

**めあて：欧米列強の侵略と日本の条約改正はどのように進められたのか？**

**●列強と帝国主義**

**【1. 帝国主義 】**：19世紀後半、資本主義諸国が軍事力を背景にして、アジアやアフリカに

原料の入手先と製品の輸出先を求めるだけでなく、資本そのものを投下して

経済的に自由な活動を行い、相手国の経済を握って植民地や勢力範囲を

広げた動きのこと。

Q.このような動きの中、日本はどうする？

国を強くする、整える、仲間として認めてもらう。

**●【2. 条約改正 】の実現**

1858年：不平等条約＝**関税自主権がない・領事裁判権を認める**

|  |  |
| --- | --- |
| 不平等条約改正への過程 | |
| 岩倉具視  (1872年～) | ・岩倉使節団が条約改正の交渉に向かうも準備不足で失敗  ⇒近代化政策を推し進める |
| 寺島宗則  (1878年～) | ・アメリカは関税自主権の回復で合意するが、イギリスなどが反対  Q.なぜ？＝取引の多い日本との貿易の利益が減るから |
| 井上馨  (1882年～) | ・**【3. 欧化政策 】**（例：鹿鳴館で舞踏会を開く）を採る  ・1886年：**ノルマントン号事件**が起こる⇒条約改正の世論が高まる |
| 大隈重信  (1888年～) | ・領事裁判権の撤廃の代わりに、外国人を裁く裁判に外国人の裁判官を  参加させる条件が出されたため、国内で猛反発⇒失脚  ・1889年：**大日本帝国憲法**の発布 |
| 青木周蔵 | ・領事裁判権の撤廃をイギリスと成立させかけるが、大津事件により辞任 |
| **【4. 陸奥宗光 】**  (1894年) | ・**日英通商航海条約**を結ぶ  ⇒領事裁判権の撤廃（他の国々とも）、関税自主権の一部回復  Q.なぜ？＝ロシアのアジア進出を警戒して日本に歩み寄ったから |
| **【5. 小村寿太郎 】**  (1911年) | ・関税自主権の完全な回復を実現する  ＝欧米諸国とのすべての条約改正が終了 |